

学習指導案 現代社会・理科（生物）「生命倫理を考える」

【キーワード】 合意形成・トランスサイエンス・生命倫理（デザイナーベビーをめぐる葛藤）

- ・教科（科目） 公民科 現代社会 『生命倫理を考える』
～生命倫理に関わるブックトークをしよう～
- ・実施日 2014年11月25日（水） 7限
- ・場所 本校 学校図書館
- ・実施クラス 東京学芸大学附属高等学校 2年F組（男子21名・女子22名）
- ・指導者 加納隆徳（公民科・現代社会） 内山正登（理科・生物科）

〈単元計画〉

生命倫理を考える（「公民科」と「理科」の連携型授業）

■授業設定の理由

1970年頃からアメリカなどを中心に議論されてきた生命倫理の問題は、倫理学のみならず、医学・生物学・薬学・哲学・政治学・法学・心理学・宗教学などのあらゆる学問分野からの総合的な取り組みが求められている。1990年代以降、日本にもインフォームドコンセントなど患者の意思決定を尊重する考え方が紹介され、患者の側の意思決定の幅が広がり、生命倫理問題も身近なものになっていった。技術の進歩は、医療の出来る幅を広げることに成功し、医師・患者・研究者側に自由を与えた一方で、医療の世界において何が正しいのが問われてくるようになった。医療の進歩は、ある決定を行うと他者の権利を侵害するような場面が出てくるようになってきた。例えば、今回取り上げる「救世主兄弟（＝デザイナーベビー）」はその一例であろう。

デザイナーベビーとは、論者によって定義が異なるが、移植目的のために、白血病の子供と白血球の型が一致する受精卵を選択する着床前診断が行われている行為を、ここではデザイナーベビーとよんだ。ここで受精卵を選択するという行為は、ある形質をもった特定の受精卵を選ぶという行為であり、逆に言えば、ある形質をもった受精卵は排除するということでもある。ある受精卵を選択する・排除するという理由はこれまでに選択できなかったことであり、選択する基準に特定の価値が含まれる場合、それが倫理的に認められるか否かが問題になってくる。たとえば、先天的な遺伝病を防ぐためにデザイナーベビーの技術をもちいることができるのか、男女の産み分けは認められるのかななどの具体的な基準も考えることが必要になってくる。

今回はそれらの問題点を概観した上で、自分たちでルール策定を行い、そのルールをクラス全体で評価していく。

■SULEとの関係性

本校のSSHでめざしているSULEという教育についても、キーコンピテンシーを以下の様に定め、政治・経済活動の評価力・判断力を学校全体の教育で育成したといとて教育活動を取り組んでいる¹。

¹ 本校資料（SULE委員会作成）による

- ▶ あらゆる問題を科学的に捉え、自ら積極的に解決できる知識、価値観、表現力、伝達能力、行動力および評価力。
- ▶ 科学的知見に基づく政治・経済活動の評価・判断力を備えている。科学・技術の理解と科学的・合理的判断に基づく行動ができる。 (下線部は筆者)

下線部の通り、本校で考えるキーコンピテンシーは、政治・経済にかかわる評価・判断力が含まれており、政策決定の議論や判断力育成に公民科が大きく関わると考えられている。公民科は社会認識を育成し、社会のあり方を考えていく教科である。社会のあり方を追究するためには、意思決定（公正や正義を考える）や社会参画も求められることになる。その一步として、科学的な知見をもったうえで、政策的議論をすることは重要である。デザイナーベイビーなどにかかわる生命倫理問題でも同様であり、科学的な知見をもった市民育成が求められている。

■理科（生物）の観点から

生物では、生物基礎の授業を通して、身の回りの自然や日常生活や社会との関連性を意識しながら理解させることが目標とされている。実験・観察を通して、生命現象について理解することは可能である。一方で、社会との関連性を意識させることが難しい。生命現象を理解し、その知識をもとに現代社会の諸課題について考えさせることが必要である。

□ 単元の目標

生命倫理に関わる問題点（デザイナーベイビー）を通じて、この問題を追究し、書籍やネットなどの資料をもちいて、他者の意見を参考にしながら、よりよいルール作り（生命倫理）の必要性を理解し、クラスでルール作りを目指すことができる。

□ 単元ごとの評価規準

関心・意欲	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
○「生命倫理」問題に関心をもち、積極的に課題を追究し、自分たちの意見をまとめようとする事ができる。	○「生命倫理」についてどのような議論や論争点があるのかを調べ、生命倫理について意思決定・判断することができる。 ○他者の意見を尊重しながら自分の意見とすりあわせを行い、合意形成することができる。	○「生命倫理」についての書籍や資料を読み解き、他者にわかりやすくポイントを伝えることができる。（図書館活用授業） ○話し合い活動を通じて、他者に自分の意見を伝え、どのような方法で合意をとることが出来る。	○「生命倫理」に関わる具体的な論争点について概観することができる ○「生命倫理」についてテーマを理解し、グループ学習を通じて、より深く内容を理解することができる。

□各時間の指導計画

各時間の内容

1 「救世主兄弟の存在と倫理的問題」		
主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	留意点

○ 救世主兄弟（デザイナーベイビー）の問題点	○ オーストラリアでおこなわれた「デザイナーベイビー」にかかわるビデオを視聴し、生命倫理に関わる問題意識をもたせる。	
○ 理科（生物）の観点からの学習	○ 現在研究が進められている生命科学の技術についての解説を行う。	
○ 「My Sister's Keeper」を見て、再度倫理的な観点を考える	○ 次に映画「My Sister's Keeper（邦題「私の中のあなた）」から、デザイナーベイビーが生まれることによって生じる問題について認識させる。これらを通して、デザイナーベイビーに対する自身の考えを明確にする	

2 多様な価値観に触れようー生命倫理に関わるブックトークをしようー（本時）		
主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	留意点
○ 振り返りと本時の目標	○ 前時をもとに、「デザイナーベイビー」に賛成派・反対派のグループを設定し、それぞれのグループ内でブックリストの中から選んだ本のブックトークを行う。	※ ブックトークを通じて、さまざまな意見が存在することを共有する。
○ ブックトーク	○ 自分たちの意見を主張するための根拠を本の中から見つけ、グループ内で共有する。最終的にクラス全員で多様な価値観を共有する。	
○ まとめ		

3 生命倫理に関わるルールをつくろうー合意を形成することー		
主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	留意点
○ ルール作り	○ 医師・研究者・宗教家などのさまざまな役割・立場を設定し、ロールプレイを行う。それぞれの立場から、前時のブックトークから根拠を明示して議論を展開する。	
○ まとめ	○ 最終的に、倫理指針や法律制定など合意形成に向けた話し合いを行う。	

4 合意を評価する		
主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	留意点
○ 振り返り	○ 前時で作ったルールを全員で共有し、自分たちのルールについて評価することを目標とする。	
○ 合意形成の質を評価する。	○ 他のグループのルールを知ることにより、自分たちの見落としていた観点を明らかにし、その観点からルールの評価を試みる。	

学習指導案

東京学芸大学附属高等学校 60期 (2年F組)

教科 (科目)	公民科 (現代社会)	単元名	生命倫理を考える (2時間目 / 4時間中)
本時主題	本から他者の意見を学ぶ		
本時の目標	<p>1 問題意識 (救世主兄弟の可否) から生命倫理というテーマを通して、医療の役割と限界について関心をもつ。</p> <p>2 与えられた課題から書籍を読むことによる意見表明を行う事ができ、社会を形成するために合意形成が必要であることを理解する。</p> <p>3 本を読んだ上で、生徒間で意見を発表することができる。</p> <p>4 生命倫理について、実際にどのような問題が生じているのかを追究する意欲をもつ。</p>		

指導の内容・ねらい	学習活動	指導上の留意点
○前時の復習 (5分)	○デザイナーベイビー問題と「My Sister's Keeper」を見て、どのような倫理的な課題が存在するか、書籍から話し合いを行う。	簡単に触れる程度にする
○ グループ内でブックトーク (15分)	○ グループ内でブックトークを行う。 【指定された書籍】 別紙司書作成資料を参照のこと 各班で課題として指定されてきた本を紹介し合う。 (班ごとに着席し、本を中心に於いて話し合いをおこなう。)	※ 司書岡田からは国立女性教育会館からの貸出資料 (生命倫理) のブックリスト作成及び印刷などを協力してもらい、前時に配付済み。
○ グループ内で意見交流 (5分)	○ グループ内で意見交流してみよう。 ⇒他の人から紹介してもらった意見をもとに自分の意見をまとめてみよう。	
○ 代表の本を一冊選び、みんなに紹介しよう。(20分)	○ グループ内で一番良かった本を一冊選ぶ。 ◎ 良かった本の基準 ・ みんなに紹介してみたい ・ 自分の見えなかった考え方 (視点) があった ・ みんなに対してこの意見は知って欲しい といった考え方があった本を選ぶ。 ○ 一人2分 (紹介者・本をもつ人・ホワイトボードをもつひと) で本の紹介と本のポイント説明。	※ ホワイトボードには、知って欲しいポイントを記入する。
○まとめ (5分)	○ 次回の授業内容の確認 (コンセンサス会議にむけて)	

4

	役割分担の配付・確認から ○ 理科的な補足説明と合意形成の必要性について注意する。	
--	--	--

※ 次回の授業では、コンセンサス会議を開き、合意形成を目指したグループワークを行う。

(土曜の公開研究会では、合意形成内容を評価し、再度振り返る。)

○図書館授業を行うことについて (今回の授業のポイント)

生命倫理の意思決定の場面において、他者の意見を参考にすることは非常に重要になる。倫理とは「人として守るべき道」という辞書的な定義に従うなら、人に対して何らかのルールを強要することになる。もちろん、相対主義の考えをとれば、自分は自分・相手は相手という形でルールを定める必要はなくなるが、相対主義をとらない人からは合意形成を求められることになる。今回取り上げている生命倫理では、どうしても自分の最初の直感で議論を行いがちであるが、他者がどのような考えをもっているのか、他者の考えをトレースすることは重要であると考え。今回、学校司書の岡田さんは生命倫理に関わる書籍をセクションしてくれ、国立女性会館から貸出を行ってくれた。司書が選定した本の中から、理科(生物)の内山が本の選定・課題作りをおこなった。(表 書籍リスト) 今回はその本をもちいて、意見を交換する予定である。

【表】 書籍リスト

1班指定書籍 (賛成派)	5班指定書籍 (反対派)
19 はじめて学ぶ生命倫理 25 女の子のための愛と性の生命倫理 34 子どもの医療と生命倫理 50 生殖医療と法	3 生まれてはならない子として 21 いのちの始まりの生命倫理 31 生命倫理の源流 41 この国で産むということ
2班指定書籍 (賛成派)	6班指定書籍 (反対派)
26 その規範を動かすもの 28 優生政策の系譜 35 子どもの医療と法 51 出生前診断の法律問題	20 命は誰のものか 22 医療倫理の歴史 24 日本の生命倫理 33 いのちと向き合う看護と倫理
3班指定書籍 (賛成派)	7班指定書籍 (反対派)
27 優生学の時代を超えて 29 生命倫理学の誕生 38 あなたの子宮を貸してください 46 受精卵診断と出生前診断	18 バイオ・コアと女性の身体 23 モラルある人は、そんなことはしない 30 生命倫理と医療倫理 39 がん・生殖医療
4班指定書籍 (賛成派)	「番号」は書籍番号 (司書がつけたもの)

32 生命倫理の教科書	
40 母と娘の代理出産	
42 生殖・発生の医学と倫理	
54 私的所有論	

高等学校の授業ではあまり司書と教員のコラボ授業が行われてこなかったが、教員も授業の目的や授業の趣旨などを伝え、一緒に授業をつくるということが必要であると感じている。その意味では、学校図書館活用データベースにおいて、授業指導案及びブックリストを掲載することは重要であると考えている。